

四半期報告書

(第14期第2四半期)

自 平成22年7月1日
至 平成22年9月30日

株式会社Jストリーム

東京都港区芝二丁目5番6号

目 次

頁

表 紙

第一部	企業情報	1
第1	企業の概況	1
1	主要な経営指標等の推移	1
2	事業の内容	2
3	関係会社の状況	2
4	従業員の状況	2
第2	事業の状況	3
1	生産、受注及び販売の状況	3
2	事業等のリスク	3
3	経営上の重要な契約等	3
4	財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	4
第3	設備の状況	6
第4	提出会社の状況	7
1	株式等の状況	7
(1)	株式の総数等	7
(2)	新株予約権等の状況	8
(3)	行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	9
(4)	ライツプランの内容	9
(5)	発行済株式総数、資本金等の推移	9
(6)	大株主の状況	9
(7)	議決権の状況	10
2	株価の推移	10
3	役員の状況	10
第5	経理の状況	11
1	四半期連結財務諸表	12
(1)	四半期連結貸借対照表	12
(2)	四半期連結損益計算書	14
(3)	四半期連結キャッシュ・フロー計算書	16
2	その他	26
第二部	提出会社の保証会社等の情報	27

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成22年11月11日
【四半期会計期間】	第14期第2四半期（自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日）
【会社名】	株式会社Jストリーム
【英訳名】	J-Stream Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役会長兼社長 白石 清
【本店の所在の場所】	東京都港区芝二丁目5番6号
【電話番号】	03（5765）7744
【事務連絡者氏名】	取締役 経理部担当、関係会社管理部担当、人事部担当、総務部長 保住 博史
【最寄りの連絡場所】	東京都港区芝二丁目5番6号
【電話番号】	03（5765）7744
【事務連絡者氏名】	取締役 経理部担当、関係会社管理部担当、人事部担当、総務部長 保住 博史
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第13期 第2四半期連結 累計期間	第14期 第2四半期連結 累計期間	第13期 第2四半期連結 会計期間	第14期 第2四半期連結 会計期間	第13期
会計期間	自 平成21年 4月1日 至 平成21年 9月30日	自 平成22年 4月1日 至 平成22年 9月30日	自 平成21年 7月1日 至 平成21年 9月30日	自 平成22年 7月1日 至 平成22年 9月30日	自 平成21年 4月1日 至 平成22年 3月31日
売上高（千円）	2,704,090	2,530,349	1,399,380	1,321,005	5,481,866
経常損失（△）（千円）	△162,025	△142,473	△48,274	△73,873	△151,304
四半期（当期）純損失（△） （千円）	△132,420	△243,049	△33,553	△122,922	△206,024
純資産額（千円）	—	—	3,370,923	3,003,178	3,249,951
総資産額（千円）	—	—	4,042,292	3,774,177	4,001,204
1株当たり純資産額（円）	—	—	23,072.92	20,663.65	22,413.58
1株当たり四半期（当期）純損失 金額（△）（円）	△943.93	△1,748.99	△239.18	△884.55	△1,469.23
潜在株式調整後1株当たり四半期 （当期）純利益金額（円）	—	—	—	—	—
自己資本比率（％）	—	—	80.1	76.1	77.8
営業活動による キャッシュ・フロー（千円）	147,044	156,157	—	—	106,449
投資活動による キャッシュ・フロー（千円）	50,176	△352,435	—	—	△127,807
財務活動による キャッシュ・フロー（千円）	△4,022	△11,125	—	—	△63,548
現金及び現金同等物の四半期末 （期末）残高（千円）	—	—	1,916,424	1,430,916	1,638,318
従業員数（人）	—	—	382	361	367

(注) 1. 当社は、四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額については、1株当たり四半期（当期）純損失であり、また、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結会計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

3【関係会社の状況】

当第2四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

4【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成22年9月30日現在

従業員数（人）	361	(36)
---------	-----	------

(注) 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は、当第2四半期連結会計期間の平均人員を（ ）外数で記載しております。

(2) 提出会社の状況

平成22年9月30日現在

従業員数（人）	192	(22)
---------	-----	------

(注) 1. 従業員数は、就業人員（当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む。）であります。
2. 臨時雇用者数は、当第2四半期会計期間の平均人員を（ ）外数で記載しております。

第2【事業の状況】

1【生産、受注及び販売の状況】

(1) 受注状況

当第2四半期連結会計期間の受注状況をセグメントごとに示すと次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高 (千円)	前年同期比 (%)	受注残高 (千円)	前年同期比 (%)
配 信	527,867	—	941,959	—
制作・システム開発	523,231	—	172,186	—
コンテンツビジネス	133,763	—	—	—
報告セグメント計	1,184,863	—	1,114,145	—
そ の 他	3,820	—	5,122	—
合計	1,188,683	—	1,119,267	—

- (注) 1. 金額は販売価格によっており、セグメント間の内部振替前の数値によっております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 販売実績

当第2四半期連結会計期間の販売実績をセグメントごとに示すと次のとおりであります。

セグメントの名称	当第2四半期連結会計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)	
	金額 (千円)	前年同期比 (%)
配 信	569,384	—
制作・システム開発	613,135	—
コンテンツビジネス	133,763	—
報告セグメント計	1,316,284	—
そ の 他	4,720	—
合計	1,321,005	—

- (注) 1. 金額は販売価格によっており、セグメント間の取引については相殺消去しております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2【事業等のリスク】

当第2四半期連結会計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

4【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1)業績の状況

当第2四半期連結会計期間におけるわが国の経済は、株安や急激な円高の進行、各種の消費刺激策の終了に伴う反動減等から不透明性が増加しました。雇用・所得環境は依然として厳しく、失業率も高水準にあるなど、引き続き厳しい状況で推移いたしました。インターネット業界においては各種のデバイスが発表され、これを利用したビジネス展開が注目を集めています。広告出稿の一部にも回復の兆しが見られますが、全体的には広告宣伝、販売促進費の絞り込みが継続する状況にあります。

このような環境のもと、当社グループは、多様な端末が利用される時代に対応する「クロスデバイス」対応配信サービスや、コンテンツ配信プラットフォーム「ブライトコープ」等で新しく発生する企業ニーズに対応しつつ、価格競争力の向上を図りました。

当第2四半期連結会計期間においては、企業ユーザーによる広告、販売促進目的の映像配信利用に回復の兆しが見られ、販売件数は増加傾向にありますが、全体に価格要請も厳しくなっております。携帯端末メーカー向けの開発需要も引き続き低調であり、また大口の開発案件の開発長期化が費用の増加要因となりました。

以上の結果、当第2四半期連結会計期間の業績は、連結売上高1,321百万円（前年同期比5.6%減）、連結営業損失79百万円、連結経常損失73百万円、連結四半期純損失は122百万円となりました。

セグメントの売上は次のとおりであります。

(配信事業)

配信事業においては、「ブライトコープ」や「クロスデバイス ライブ」など、ユーザーが映像配信を多様な用途に活用しやすくするアプリケーションサービスの開発・販売を通じて受注拡大を図りました。

当第2四半期連結会計期間においては、商品紹介やプロモーション案件の受注に回復が見られますが、配信の単価下落が同時に進みました。コンテンツ配信ビジネス用途の受注についても、「ブライトコープ」等のアプリケーション販売が実績に結びついていますが、配信単価の下落も進んでおり、第1四半期連結会計期間とほぼ同様の実績となりました。モバイル関連は、iチャンネル向けASPサービスの値下げやサービス提供停止が散見され低調な推移となりました。当事業の売上高は569百万円となりました。

(制作・システム開発事業)

制作・システム開発事業においては、企業の映像を利用したウェブサイトやサイトに掲載する映像の制作、及びこれに関連するサイトの更新運用などを行ってまいりました。同事業は配信事業とあわせて当社グループが提供するワンストップサービスを構成しており、顧客ニーズに応じたクリエイティブ提案を通じ、配信事業とあわせて受注拡大を図りました。

当第2四半期連結会計期間においては、大型の開発案件の受注があったほか、商品プロモーション目的でのウェブサイトやコンテンツ制作案件において、回復傾向が見られました。映像制作についても受注が上向きとなりました。当事業の売上高は613百万円となりました。

(コンテンツビジネス)

コンテンツビジネスにおいては、携帯電話向けコンテンツ配信サイトの運営や、アーティストの会員ウェブサイトの運営受託と関連商品の販売などを行ってまいりました。当第2四半期連結会計期間において運営するウェブサイトの会員数は微増となりました。当事業の売上高は133百万円となりました。

その他の売上には案件の進行に伴い随時発生する上記3事業にあてはまらない売上が含まれます。当第2四半期連結会計期間におけるその他の売上高は4百万円となりました。

(2)キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、第1四半期連結会計期間末から218百万円減少し、当第2四半期連結会計期間末は1,430百万円となりました。

当第2四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果により、税金等調整前四半期純損失を109百万円計上した他、売上債権70百万円の増加などの資金の減少要因が、減価償却費の計上などの資金の増加要因を上回ったことにより、36百万円の減少（前年同期は、115百万円の減少）となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、使用した資金は175百万円（前年同期は、92百万円の増加）となりました。これは主に、本社移転に伴う有形固定資産の取得による支出（102百万円）、並びにASP関連ソフトウェアの設備投資による支出（67百万円）によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、リース債務の支払により6百万円の減少（前年同期は、1百万円の減少）となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結会計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当社グループでは、当社の事業推進部が中心となり、新サービス開発の前提となるソフトウェアや技術力のある企業の調査、実証実験、ネットワーク運用実験などを実施してまいりました。当第2四半期連結会計期間における研究開発費は、29百万円となりました。

第3【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第2四半期連結会計期間において、本社を移転いたしました。その設備の状況は、次のとおりであります。

①設備の取得

提出会社

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(千円)			従業員数 (人)
			建物及び 構築物	工具、 器具及び 備品	合計	
本社 (東京都港区)	配信事業、制作・システム開発事業、コンテンツビジネス、並びに本社総括業務(注1)	本社移転に伴う新規投資	65,326	12,151	77,478	182 (22)

国内子会社

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(千円)			従業員数 (人)
				建物及び 構築物	工具、 器具及び 備品	合計	
クロスコ株式会社	本社 (東京都港区)	制作・システム開発事業	本社移転に伴う新規投資	18,706	—	18,706	82 (4)

- (注) 1. 新設資産は、全社資産となります。
 2. 金額には消費税等は含まれておりません。
 3. 従業員数の()は、臨時雇用者数を外数で記載しております。

②設備の除却

提出会社

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(千円)			従業員数 (人)
			建物及び 構築物	工具、 器具及び 備品	合計	
本社 (東京都港区)	配信事業、制作・システム開発事業、コンテンツビジネス並びに本社総括業務(注1)	業務設備	844	—	844	—

国内子会社

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(千円)			従業員数 (人)
				建物及び 構築物	工具、 器具及び 備品	合計	
クロスコ株式会社	本社 (東京都港区)	制作・システム開発	業務設備	103	3	106	—

- (注) 1. 除却資産は、全社資産となります。
 2. 金額には消費税等は含まれておりません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第2四半期連結会計期間において、第1四半期連結会計期間末に計画中であった本社移転につきましては、平成22年8月に完了いたしました。これによる設備の取得及び除却の詳細は「(1) 主要な設備の状況」のとおりであります。

また、新たに確定した重要な設備の新設、拡充、改修、除却、売却等の計画はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	550,000
計	550,000

②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数 (株) (平成22年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成22年11月11日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	140,287	140,287	株式会社東京証券取引所 (マザーズ)	単元株制度 採用なし
計	140,287	140,287	—	—

(注) 「提出日現在発行数」欄には、平成22年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

(平成17年6月28日定時株主総会並びに平成18年1月19日取締役会決議)

	第2四半期会計期間末現在 (平成22年9月30日)
新株予約権の数(個)	414
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数(株)	414
新株予約権の行使時の払込金額(円)	311,579
新株予約権の行使期間	平成19年7月1日から 平成23年6月30日まで
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 311,579 資本組入額 155,790
新株予約権の行使の条件	(注) 1. 2. 3. 4. 5.
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権の全部又は一部につき、第三者に対して譲渡、担保権の設定、遺贈その他の処分をすることができないものとする。
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	—

(注) 1. 新株予約権割当後、被割当者が、当社の役員若しくは従業員の地位を喪失した場合、「新株予約権割当て契約」(以下、割当契約)の定めにより、新株予約権の行使につき別に取扱うことができるものとする。

2. 新株予約権割当後、新株予約権を喪失することなく被割当者が死亡した場合には、その相続人による新株予約権の行使は認めるが、権利行使可能な株式数、権利行使可能な期間その他の権利行使の条件については、割当契約に定めるものとする。

3. 被割当者は、権利行使開始日以降、割当契約の定めにより、1株の整数倍の株数で以下の区分に従って新株予約権の行使が可能となるものとする。

・新株予約権発行日から2年経過した日から付与株式数の50%を限度として行使することができる。

・新株予約権発行日から3年経過した日から付与株式数の75%を限度として行使することができる。

・新株予約権発行日から4年経過した日から付与株式数の100%を限度として行使することができる。

4. 当社が株式分割又は株式併合を行う場合、次の算式により目的たる株式の数を調整するものとする。ただし、かかる調整は本件新株予約権のうち、当該時点で権利行使していない新株予約権の目的たる株式数についてのみ行われ、調整の結果1株未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てるものとする。

調整後株式数 = 調整前株式数 × 分割・併合の比率

また、当社が他社と吸収合併若しくは新設合併を行い本件新株予約権が継承される場合又は当社が新設分割若しくは吸収分割を行う場合、当社は必要と認める株式数の調整を行う。

5. 新株予約権発行後、当社が株式分割、株式併合を行う場合は、次の算式により払込金額を調整し、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後払込金額} = \text{調整前払込金額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、新株予約権発行後、時価を下回る価額で新株式の発行(時価発行として行う公募増資及び新株予約権の行使により新株式を発行する場合を除く。)を行う場合は、次の算式により払込金額を調整し、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後払込金額} = \text{調整前払込金額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減(株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額(千円)	資本金残高(千円)	資本準備金増減額(千円)	資本準備金残高(千円)
平成22年7月1日～ 平成22年9月30日	—	140,287	—	2,182,379	—	668,458

(6) 【大株主の状況】

平成22年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
トランス・コスモス株式会社	東京都渋谷区渋谷3-25-18	62,562	44.60
株式会社NTTPCコミュニケーションズ	東京都港区西新橋2-14-1	20,652	14.72
KDDI株式会社	東京都新宿区西新宿2-3-2	15,228	10.85
リアルネットワークス・インク (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	2601 ELLIOTT AVENUE, SUITE 1000 SEATTLE, WA. 98121, USA (東京都中央区日本橋3-11-1)	14,820	10.56
株式会社みずほコーポレート銀行 (常任代理人 資産管理サービス信託銀行株式会社)	東京都千代田区丸の内1-3-3 (東京都中央区晴海1-8-12 晴海アイランド トリトンスクエアオフィスタワーZ棟)	420	0.30
瀬川 吉夫	富山県富山市	380	0.27
小森 昭彦	東京都杉並区	369	0.26
Jストリーム従業員持株会	東京都港区芝2-5-6	340	0.24
橋本 久雄	和歌山県海南市	338	0.24
平川 雅祥	広島県福山市	279	0.20
計	—	115,388	82.25

(注) 当社所有の自己株式1,321株(0.94%)については、議決権がないため、上記から除いております。

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成22年9月30日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 1,321	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 138,966	138,966	—
単元未満株式	—	—	—
発行済株式総数	140,287	—	—
総株主の議決権	—	138,966	—

② 【自己株式等】

平成22年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数 (株)	他人名義所有株式数 (株)	所有株式数の合計 (株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合 (%)
株式会社Jストリーム	東京都港区芝二丁目 5番6号	1,321	—	1,321	0.94
計	—	1,321	—	1,321	0.94

2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成22年 4月	5月	6月	7月	8月	9月
最高 (円)	56,000	47,450	39,400	34,800	29,500	25,800
最低 (円)	38,600	27,000	29,900	27,000	22,600	22,110

(注) 最高・最低株価は、株式会社東京証券取引所マザーズにおけるものであります。

3 【役員状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期報告書の提出日までにおいて、役員の変動はありません。

第5【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、前第2四半期連結会計期間（平成21年7月1日から平成21年9月30日まで）及び前第2四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年9月30日まで）は、改正前の四半期連結財務諸表規則に基づき、当第2四半期連結会計期間（平成22年7月1日から平成22年9月30日まで）及び当第2四半期連結累計期間（平成22年4月1日から平成22年9月30日まで）は、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前第2四半期連結会計期間（平成21年7月1日から平成21年9月30日まで）及び前第2四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表並びに当第2四半期連結会計期間（平成22年7月1日から平成22年9月30日まで）及び当第2四半期連結累計期間（平成22年4月1日から平成22年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	530,916	738,318
受取手形及び売掛金	821,946	1,006,834
商品	4,488	4,737
仕掛品	47,430	18,104
預け金	900,000	900,000
その他	120,195	167,148
貸倒引当金	△5,894	△6,540
流動資産合計	2,419,081	2,828,602
固定資産		
有形固定資産	※ 288,535	※ 222,375
無形固定資産		
のれん	147,727	175,968
ソフトウェア	493,177	405,341
その他	37,508	38,417
無形固定資産合計	678,413	619,726
投資その他の資産		
投資有価証券	263,607	278,913
その他	135,642	52,992
貸倒引当金	△11,103	△1,407
投資その他の資産合計	388,146	330,499
固定資産合計	1,355,095	1,172,601
資産合計	3,774,177	4,001,204
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	30,397	34,799
未払金	406,272	416,050
未払法人税等	15,041	17,008
引当金	42,226	43,046
資産除去債務	4,000	—
その他	111,352	86,600
流動負債合計	609,290	597,505
固定負債		
引当金	7,988	8,657
資産除去債務	16,937	—
負ののれん	79,193	92,391
その他	57,588	52,698
固定負債合計	161,707	153,747
負債合計	770,998	751,253

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,182,379	2,182,379
資本剰余金	1,268,458	1,268,458
利益剰余金	△529,164	△286,114
自己株式	△49,997	△49,997
株主資本合計	2,871,676	3,114,726
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△130	—
評価・換算差額等合計	△130	—
少数株主持分	131,633	135,225
純資産合計	3,003,178	3,249,951
負債純資産合計	3,774,177	4,001,204

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
売上高	2,704,090	2,530,349
売上原価	1,715,696	1,599,933
売上総利益	988,393	930,415
販売費及び一般管理費	* 1,159,952	* 1,091,967
営業損失(△)	△171,558	△161,551
営業外収益		
受取利息	4,726	4,863
負ののれん償却額	13,198	13,198
その他	8,176	10,434
営業外収益合計	26,101	28,496
営業外費用		
支払利息	1,242	1,998
組合分配損失	15,074	7,415
その他	250	4
営業外費用合計	16,568	9,419
経常損失(△)	△162,025	△142,473
特別利益		
固定資産売却益	44,500	—
貸倒引当金戻入額	13,696	1,674
受取和解金等	—	16,500
その他	5,140	2,360
特別利益合計	63,338	20,534
特別損失		
減損損失	—	40,336
支払和解金等	18,420	—
事務所移転費用引当金繰入額	—	24,558
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	8,615
その他	4,479	35,589
特別損失合計	22,899	109,099
税金等調整前四半期純損失(△)	△121,586	△231,038
法人税、住民税及び事業税	6,185	9,354
法人税等調整額	20,935	6,248
法人税等合計	27,120	15,602
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	—	△246,641
少数株主損失(△)	△16,287	△3,591
四半期純損失(△)	△132,420	△243,049

【第2四半期連結会計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結会計期間 (自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)
売上高	1,399,380	1,321,005
売上原価	867,191	843,978
売上総利益	532,189	477,026
販売費及び一般管理費	※ 576,080	※ 556,699
営業損失(△)	△43,891	△79,672
営業外収益		
受取利息	2,253	2,451
負ののれん償却額	6,599	6,599
その他	2,602	5,336
営業外収益合計	11,456	14,386
営業外費用		
支払利息	514	1,168
組合分配損失	15,074	7,415
その他	250	3
営業外費用合計	15,840	8,587
経常損失(△)	△48,274	△73,873
特別利益		
受取和解金等	—	16,500
固定資産売却益	44,071	—
貸倒引当金戻入額	12,833	—
その他	4,402	2,360
特別利益合計	61,307	18,860
特別損失		
減損損失	—	6,971
支払和解金等	18,420	—
事務所移転費用引当金繰入額	—	24,558
その他	4,479	22,768
特別損失合計	22,899	54,298
税金等調整前四半期純損失(△)	△9,867	△109,311
法人税、住民税及び事業税	3,482	6,736
法人税等調整額	20,821	5,670
法人税等合計	24,303	12,406
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	—	△121,717
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△618	1,204
四半期純損失(△)	△33,553	△122,922

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失 (△)	△121,586	△231,038
減価償却費	107,831	105,471
減損損失	—	40,336
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	8,615
のれん償却額	28,587	28,240
負ののれん償却額	△13,198	△13,198
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△3,253	5,622
遅延損害引当金の増減額 (△は減少)	—	△31,000
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△12,348	9,049
事務所移転費用引当金の増減額 (△は減少)	—	24,558
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	—	△669
有形及び無形固定資産除却損	—	1,101
有形及び無形固定資産売却損益 (△は益)	△44,500	—
受取利息及び受取配当金	△4,726	△4,863
支払利息	1,242	1,998
組合分配損失	15,074	7,415
投資有価証券売却損益 (△は益)	—	△697
受取和解金等	—	△16,500
支払和解金等	18,420	—
売上債権の増減額 (△は増加)	246,868	184,888
たな卸資産の増減額 (△は増加)	2,483	△28,694
その他の資産の増減額 (△は増加)	56,657	△11,821
仕入債務の増減額 (△は減少)	3,062	△4,401
未払金の増減額 (△は減少)	△90,595	3,960
その他の負債の増減額 (△は減少)	△21,561	15,911
その他	—	5,390
小計	168,458	99,675
利息及び配当金の受取額	5,760	5,338
利息の支払額	△1,242	△1,870
和解金の支払額	△18,420	—
和解金の受取額	—	16,500
法人税等の支払額	△7,511	△7,517
法人税等の還付額	—	44,032
営業活動によるキャッシュ・フロー	147,044	156,157

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△50,462	△112,140
無形固定資産の取得による支出	△75,122	△162,116
有形固定資産の売却による収入	51,723	—
無形固定資産の売却による収入	91,376	—
敷金及び保証金の差入による支出	—	△73,089
投資有価証券の売却による収入	—	697
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	4,704	—
貸付けによる支出	△10,000	—
貸付金の回収による収入	21,574	1,574
定期預金の払戻による収入	10,000	—
保険積立金の解約による収入	7,597	—
資産除去債務の履行に係る支出	—	△9,273
その他	△1,216	1,912
投資活動によるキャッシュ・フロー	50,176	△352,435
財務活動によるキャッシュ・フロー		
リース債務の返済による支出	△4,022	△11,125
財務活動によるキャッシュ・フロー	△4,022	△11,125
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	193,198	△207,402
現金及び現金同等物の期首残高	1,723,225	1,638,318
現金及び現金同等物の四半期末残高	* 1,916,424	* 1,430,916

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)
会計処理基準に関する事項の変更	(資産除去債務に関する会計基準の適用) 第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)」を適用しております。 これに伴う、当第2四半期連結累計期間の営業損失及び経常損失に与える影響は軽微であり、税金等調整前四半期純損失は、10,097千円増加しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は13,221千円であります。

【表示方法の変更】

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)
(四半期連結損益計算書)	「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成21年3月24日 内閣府令第5号)の適用により、当第2四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純損失(△)」の科目で表示しております。

	当第2四半期連結会計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)
(四半期連結貸借対照表)	前第2四半期連結会計期間において、無形固定資産の「その他」に含めて表示しておりました「ソフトウェア」は、資産の総額の100分の10を超えたため、当第2四半期連結会計期間から区分掲記しております。 なお、前第2四半期連結会計期間の無形固定資産の「その他」に含まれる「ソフトウェア」は312,941千円であります。
(四半期連結損益計算書)	「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成21年3月24日 内閣府令第5号)の適用により、当第2四半期連結会計期間では、「少数株主損益調整前四半期純損失(△)」の科目で表示しております。

【簡便な会計処理】

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)
1. 一般債権の貸倒見積高の算定方法	貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められる場合は、前連結会計年度決算において算定した貸倒実績率等の合理的な基準を使用して一般債権の貸倒見積高を算定しております。
2. 棚卸資産の評価方法	四半期連結会計期間末における棚卸高の算出に関して、実地棚卸を省略し前連結会計年度に係る実施棚卸高を基礎として合理的な方法により算定しております。 棚卸資産の簿価切下げに関して収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法を採用しております。
3. 固定資産の減価償却費の算定方法	固定資産の減価償却の方法として定率法を採用している償却資産は、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定しております。
4. 繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法	繰延税金資産の回収可能性の判断に関して、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められる場合は、前連結会計年度決算において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法を採用しております。
5. 工事原価総額の見積方法	工事原価総額の見積りに当たって、四半期連結会計期間末における工事原価総額が、前連結会計年度又は直前の四半期連結会計期間末に見積った工事原価総額から著しく変動しているものと認められる工事契約を除き、前連結会計年度末又は直前の四半期連結会計期間末に見積った工事原価総額を利用する方法を採用しております。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

当第2四半期連結累計期間（自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日）

該当事項はありません。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末 (平成22年3月31日)
※ 有形固定資産の減価償却累計額 379,896千円	※ 有形固定資産の減価償却累計額 389,218千円

(四半期連結損益計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。	※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。
従業員給与 412,529千円	従業員給与 339,136千円
賞与引当金繰入額 10,901千円	賞与引当金繰入額 3,504千円

前第2四半期連結会計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)
※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。	※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。
従業員給与 214,277千円	従業員給与 164,270千円
賞与引当金繰入額 2,774千円	賞与引当金繰入額 1,292千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成21年9月30日現在)	※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成22年9月30日現在)
現金及び預金勘定 1,116,424千円	現金及び預金勘定 530,916千円
預け金勘定 800,000千円	預け金勘定 900,000千円
現金及び現金同等物 1,916,424千円	現金及び現金同等物 1,430,916千円

(株主資本等関係)

当第2四半期連結会計期間末(平成22年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年9月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数
普通株式 140,287株
2. 自己株式の種類及び株式数
普通株式 1,321株
3. 新株予約権等に関する事項
該当事項はありません。
4. 配当に関する事項
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【事業の種類別セグメント情報】

前第2四半期連結会計期間(自平成21年7月1日至平成21年9月30日)

	配信事業 (千円)	制作事業 (千円)	その他の事 業(千円)	計(千円)	消去又は全 社(千円)	連結 (千円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	588,030	549,684	261,666	1,399,380	—	1,399,380
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	475	2,393	4,087	6,955	(6,955)	—
計	588,505	552,077	265,753	1,406,336	(6,955)	1,399,380
営業利益又は営業損失(△)	152,611	△28,613	7,315	131,313	(175,204)	△43,891

前第2四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年9月30日)

	配信事業 (千円)	制作事業 (千円)	その他の事 業(千円)	計(千円)	消去又は全 社(千円)	連結 (千円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	1,208,709	1,002,785	492,595	2,704,090	—	2,704,090
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	1,258	5,500	4,087	10,845	(10,845)	—
計	1,209,967	1,008,285	496,683	2,714,936	(10,845)	2,704,090
営業利益又は営業損失(△)	319,107	△121,290	△5,971	191,845	(363,404)	△171,558

(注) 1. 事業区分は、サービスの系列及び市場の類似性を考慮して区分しております。

2. 各事業の主な内容

- (1) 配信事業・・・ライブ・オンデマンド配信、携帯端末関連配信、配信に付随するサービス
- (2) 制作事業・・・ウェブ制作、エンコード、映像制作
- (3) その他の事業・・・システム開発、アプリケーション開発、機器・ソフトウェア販売、その他

【所在地別セグメント情報】

前第2四半期連結会計期間(自平成21年7月1日至平成21年9月30日)

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び重要な在外支店がないため、該当事項はありません。

前第2四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年9月30日)

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び重要な在外支店がないため、該当事項はありません。

【海外売上高】

前第2四半期連結会計期間(自平成21年7月1日至平成21年9月30日)

海外売上高がないため該当事項はありません。

前第2四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年9月30日)

海外売上高がないため該当事項はありません。

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、各社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、当社本社を始めとした各拠点に配信インフラ、ネットワーク、ソフトウェアを保有し、コンテンツ配信サービスを中心に、コンテンツ制作、サイト構築及び映像制作などの事業活動を展開しております。当社グループの事業は、サービスの性質及びサービスの提供方法の類似性等を考慮して分類し、「配信事業」、「制作・システム開発事業」及び「コンテンツビジネス」の3区分を報告セグメントとしております。

「配信事業」は、ライブ及びオンデマンドストリーミング、配信利用に付随するアプリケーションのカスタマイズなどを行っております。

「制作・システム開発事業」は、ウェブサイトや配信システム、映像制作及びコンテンツの受託制作を行っております。

「コンテンツビジネス」は、携帯向けコンテンツ配信サイトの運営、アーティストの会員ウェブサイトの運営受託などを行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第2四半期連結累計期間（自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日）

（単位：千円）

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	配信	制作・ システム 開発	コンテンツ ビジネス	計				
売上高								
外部顧客への売上高	1,132,920	1,134,640	251,036	2,518,597	11,751	2,530,349	—	2,530,349
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	34,177	17,650	6,573	58,401	2,452	60,853	△60,853	—
計	1,167,097	1,152,291	257,609	2,576,999	14,204	2,591,203	△60,853	2,530,349
セグメント利益又は 損失（△）	264,578	△59,829	△20,901	183,846	△1,709	182,136	△343,688	△161,551

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、案件受注に伴い発生するドメインの手配代行、機器販売等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△343,688千円には、セグメント間取引消去△300千円及び配賦不能営業費用△343,388千円が含まれております。配賦不能営業費用の主なものは、総務・経理部門等の管理部門に係る費用及び研究開発費等であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

当第2四半期連結会計期間（自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日）

（単位：千円）

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	配信	制作・ システム 開発	コンテンツ ビジネス	計				
売上高								
外部顧客への売上高	569,384	613,135	133,763	1,316,284	4,720	1,321,005	—	1,321,005
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	16,447	10,092	2,695	29,235	1,050	30,285	△30,285	—
計	585,832	623,228	136,458	1,345,520	5,770	1,351,291	△30,285	1,321,005
セグメント利益又 は損失（△）	122,784	△20,560	△7,623	94,600	△1,883	92,717	△172,389	△79,672

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、案件受注に伴い発生するドメインの手配代行、機器販売等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△172,389千円には、セグメント間取引消去△150千円及び配賦不能営業費用△172,239千円が含まれております。配賦不能営業費用の主なものは、総務・経理部門等の管理部門に係る費用及び研究開発費等であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第2四半期連結会計期間において、制作・システム開発事業における固定資産減損損失を6,971千円計上いたしました。

（追加情報）

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

(金融商品関係)

当第2四半期連結会計期間末(平成22年9月30日)

金融商品の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(有価証券関係)

当第2四半期連結会計期間末(平成22年9月30日)

有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(デリバティブ取引関係)

当第2四半期連結会計期間末(平成22年9月30日)

該当事項はありません。

(ストック・オプション等関係)

当第2四半期連結会計期間(自平成22年7月1日至平成22年9月30日)

1. スtock・オプションに係る当第2四半期連結会計期間における費用計上額及び科目名

該当事項はありません。

2. 当第2四半期連結会計期間に付与したストック・オプションの内容

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

当第2四半期連結会計期間末(平成22年9月30日)

資産除去債務が、企業集団の事業の運営において重要なものとなっており、かつ、前連結会計年度の末日に比べて著しい変動が認められます。

変動の内容及び当第2四半期連結累計期間における総額の増減は次のとおりであります。

前連結会計年度末残高(注)	13,221千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	14,956千円
資産除去債務の履行による減少額	△9,273千円
その他増減額(△は減少)	2,032千円
当第2四半期連結会計期間末残高	<u>20,937千円</u>

(注) 第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しているため、前連結会計年度の末日における残高に代えて、第1四半期連結会計期間の期首における残高を記載しております。

(1株当たり情報)

1. 1株当たり純資産額

当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)		前連結会計年度末 (平成22年3月31日)	
1株当たり純資産額	20,663.65円	1株当たり純資産額	22,413.58円

2. 1株当たり四半期純損失金額

前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)		当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	
1株当たり四半期純損失金額	943.93円	1株当たり四半期純損失金額	1,748.99円
なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であり、また、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。		なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であり、また、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。	

(注) 1株当たり四半期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
1株当たり四半期純損失金額		
四半期純損失(△)(千円)	△132,420	△243,049
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純損失(△)(千円)	△132,420	△243,049
期中平均株式数(株)	140,287	138,966
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	—	—

前第2四半期連結会計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)		当第2四半期連結会計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)	
1株当たり四半期純損失金額	239.18円	1株当たり四半期純損失金額	884.55円
なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であり、また、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。		なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であり、また、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。	

(注) 1株当たり四半期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結会計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)
1株当たり四半期純損失金額		
四半期純損失(△)(千円)	△33,553	△122,922
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純損失(△)(千円)	△33,553	△122,922
期中平均株式数(株)	140,287	138,966
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	—	—

(重要な後発事象)

当第2四半期連結会計期間(自平成22年7月1日至平成22年9月30日)

当社は、平成22年11月5日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式の取得に係る事項について以下のとおり決議いたしました。

(1) 自己株式取得に関する取締役会の決議内容

1. 取得の理由

今後の経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行及び株主還元策の一環として、自己株式を取得するものであります。

2. 株式の種類

普通株式

3. 取得株式数

2,200株(上限とする)

4. 取得価額

50,000,000円(上限とする)

5. 取得時期

自平成22年11月8日至平成23年4月30日

6. 取得方法

東京証券取引所における市場買付

(リース取引関係)

当第2四半期連結会計期間(自平成22年7月1日至平成22年9月30日)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成21年11月11日

株式会社Jストリーム

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 中川 豪 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 奥見 正浩 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社Jストリームの平成21年4月1日から平成22年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成21年7月1日から平成21年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社Jストリーム及び連結子会社の平成21年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間の経営成績並びに第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成22年11月10日

株式会社Jストリーム

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 中川 豪 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 奥見 正浩 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社Jストリームの平成22年4月1日から平成23年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成22年7月1日から平成22年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成22年4月1日から平成22年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社Jストリーム及び連結子会社の平成22年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間の経営成績並びに第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が、すべての重要な点において認められなかった。

追記情報

重要な後発事象に記載されているとおり、会社は平成22年11月5日開催の取締役会において、自己株式の取得を決議している。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。